

## トラック輸送情報（平成21年1月分）

平成21年4月24日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：桑原、久島 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：http://toukei.mlit.go.jp/

## 1. 特別積合せ貨物

## (1) 本月の概況

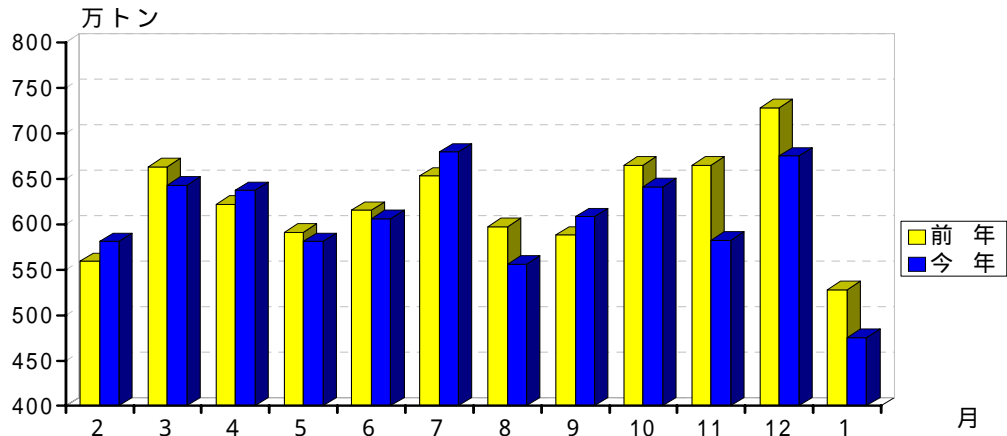
調査対象26社の本月の輸送量は、4,748,705トンで、前月と比べ総輸送量が約200万トン減少したため、前月比70.4%（季節調整済み99.5%）となり、前年同月との比較では、約53万トン減少したため、前年同月比90.0%の実績であった。

なお、平均稼働日数は22.3日で、前月と比べ1.0日の減少、前年同月と比べ1.1日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、212,946トンで、前月と比べ約7万7千トン減少したため、前月比73.5%となり、前年同月との比較では、約3万6千トン減少したため、前年同月比85.5%の実績であった。

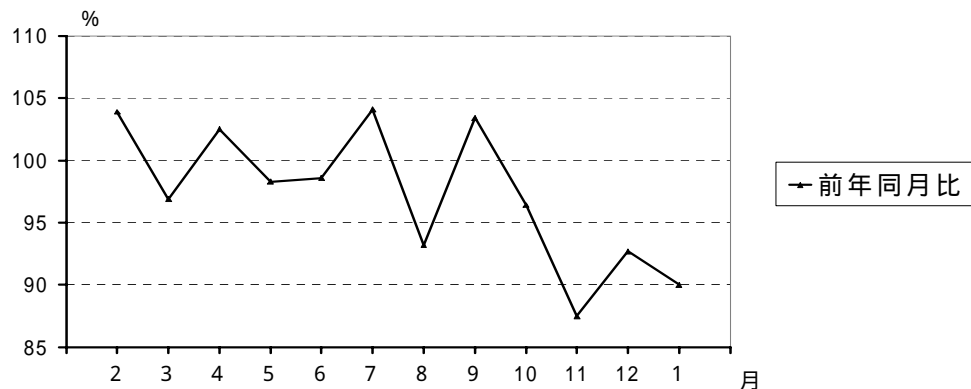
（図1-1、図1-2参照）

注）平成20年4月から貨物輸送の調査対象については、従来対象としていた7社の合併により26社となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



(2) 宅配便の概況

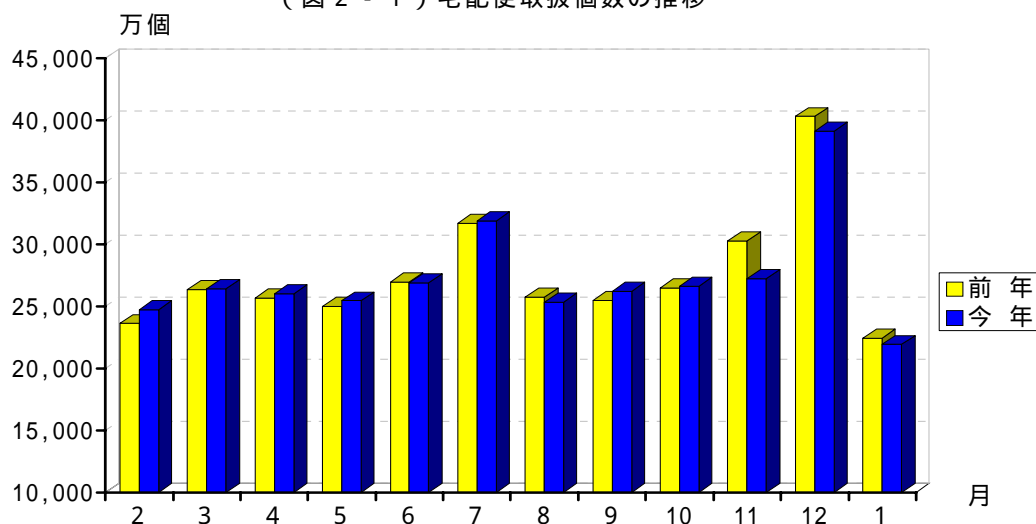
調査対象 20 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、219,210 千個で、前月と比べ 約 1 億 7,219 万個減少したため、前月比 56.0% (季節調整済み 98.8%) となり、前年同月との比較では、約 490 万個減少したため、前年同月比 97.8%の実績であった。

(図2 - 1、図2 - 2参照)

注)平成20年4月から宅配便輸送については調査対象が1社増え、20社となった。

対前年同月比並びに対前月比は、20社ベースで比較している。

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社の品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、年末繁忙期が終了したことや正月休みによって稼働日数が減少したこと、また、不況に伴う減産の影響等により、全般的に輸送量は減少した。減少要因としては、全ての品目で工場・生産地からの貨物減がみられたほか、「日用品」では商社・問屋からの貨物減、「その他(宅配便・百貨店配送品)」では、デパート・スーパーからの貨物減による減少もみられた。地域的には、ほぼ全ての品目で関東地方、中部地方及び近畿地方といった大都市圏をはじめ、全国的に貨物量の減少がみられた。

前年同月と比べると、稼働日数は若干増加しているものの、不況の影響等により、ほぼ全ての品目で輸送量が減少している。品目別では、主に不況に伴う工場・生産地からの貨物減等により、「機械」、「化学工業品」、「日用品」の輸送量の減少がみられた。地域的には、「農水産品」が東北及び関東で減少し、「食料工業品」が関東、近畿及び福岡で減少したほか、「金属製品」、「機械」、「化学工業品」、「繊維工業品」、「日用品」、「その他(宅配便・百貨店配送品)」では、ほぼ全国的に減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	増	変らず	減					
前月に比べて	農水産品			10	2	6	野菜、青果物	東北、関東、中国	4
	金属製品		1	9	7	3	その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	機械			7	7	6	その他の機械、機械部品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	化学工業品		1	7	9	5	合成樹脂、その他の化学工業品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7
	繊維工業品			11	7	4	織物	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国	4, 7, 8
	食料工業品		1	6	6	7	その他の食料工業品、加工食品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4, 7
	日用品			4	11	7	書籍・印刷物、衣服、身用品、文具、玩具、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州、全国	4, 5, 7, 8
	その他		1	6	5	9	宅配便、百貨店配送品	神奈川、関東、大阪、中国、全国	2, 4, 8
前年同月に比べて	農水産品	1		12	3	2	野菜	東北、関東	4
	金属製品		1	9	6	4	その他の金属製品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	機械	1		7	8	4	その他の機械、機械部品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国	4, 9
	化学工業品		1	7	10	4	合成樹脂、その他の化学工業品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 7, 9
	繊維工業品			12	8	2	織物	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4
	食料工業品		3	11	4	2	その他の食料工業品、加工食品	関東、近畿、福岡	4
	日用品		1	8	9	3	書籍・印刷物、文具、その他の日用品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、近畿、中国、全国	4, 5, 7, 9
	その他	1	2	7	9	2	宅配便、百貨店配送品	関東、全国	2

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2 . 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 778 社 / 調査対象事業者数 1,095 社）の輸送量は、前月比 85.9%、前年同月比 90.3%であった。

### (表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	85.9%	92.8%	83.0%	88.3%	77.8%	86.5%	84.0%	77.7%	87.2%	86.0%	71.7%
前年同月比	90.3%	97.2%	90.1%	92.1%	87.9%	83.9%	90.5%	79.0%	88.2%	92.0%	102.3%

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	本月の輸送は、対前月比92.8%、対前年同月比97.2%であった。品目別には、季節的需要増等により「揮発油」、「廃棄物」等の輸送量が増加した。中でも排雪を要因とする「廃棄物」の輸送量増加が顕著であった。一方、工場・生産地からの貨物減等により「木材」等の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「その他の農産品」、「食料工業品」、「動植物性飼・肥料」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
東北	本月の輸送は、対前月比83.0%、対前年同月比90.1%となり、品目別には、不況の影響等により「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「機械」、「紙・パルプ」、「その他の製造工業品」等の輸送量が減少したほか、季節的需要減等により「食料工業品」、「取り合せ品」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
関東	本月の輸送は、対前月比88.3%、対前年同月比は92.1%であった。品目別には、不況の影響等により「金属製品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
北陸信越	本月の輸送は、対前月比77.8%、対前年同月比は87.9%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」等の輸送量が減少したほか、不況の影響等により「鉄鋼」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
中部	本月の輸送は、対前月比86.5%、対前年同月比は83.9%であった。管内の全ての県で対前年同月比2桁のマイナスとなったことから、16.1%の大幅な減少となっている。品目別には、工場・生産地からの貨物減等により「その他の製造工業品」等の輸送量が減少したほか、不況の影響等により「金属製品」、「機械」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
近畿	本月の輸送は、対前月比84.0%、対前年同月比は90.5%であった。品目別には、季節的需要減等により「食料工業品」等の輸送量が減少したほか、不況の影響等により「機械」、「化学薬品」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
中国	本月の輸送は、対前月比77.7%、対前年同月比は79.0%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物減等により「鉄鋼」、「機械」、「化学薬品」、「食料工業品」、「その他の製造工業品」等の輸送量が減少したほか、自動車の減産等により「鉄鋼」、「機械」等の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
四国	本月の輸送は、対前月比87.2%、対前年同月比は88.2%であった。品目別には、不況の影響等により第一次産業である「木材」の輸送量が減少したほか、第二次産業である「化学薬品」、「紙・パルプ」の輸送量にも減少がみられた。全体としては、前月を大幅に下回っているが、今後の輸送見通しは、次月及び以降は横ばいか若干上昇傾向にあると予想される。
九州	本月の輸送は、対前月比86.0%、対前年同月比は92.0%であった。品目別には、季節的需要減等により「野菜・果物」等の輸送量が減少したほか、不況の影響等により「機械」、「セメント」、「その他の石油製品」、「取り合せ品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、景気上昇の兆しが見えない中、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
沖縄	本月の輸送は、対前月比71.7%、対前年同月比は102.3%であった。品目別には、「木材」、「取り合せ品」の輸送量が増加した一方で、季節的需要減等により「穀物」、「紙・パルプ」等の輸送量が減少している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増		1		1							2
	減		1							1	1	3
2. 野菜・果物	増	1							1	1		3
	減		2		3		1	1	1	4		12
3. その他の農産品	増											
	減	4	1		1					1	1	8
4. 畜産品	増	1										1
	減									2		2
5. 水産品	増									1		1
	減	3	1					2	1	1		8
6. 木材	増										1	1
	減	5	2		1		1	3	2			14
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増		1									1
	減	1										1
9. 金属鉱物	増											
	減				2							2
10. 砂利・砂・石材	増	4					1			1		6
	減	5	2		3	1		1		3		15
11. 工業用非金属鉱物	増											
	減	1	1					1		2		5
12. 鉄鋼	増	1	1		1							3
	減	5	3	1	3			8		2		22
13. 非鉄金属	増											
	減				1		1					2
14. 金属製品	増									2		2
	減		1	2	6	3	3	1		4		20
15. 機械	増					1			1			2
	減	1	4		1	4	3	5		6	1	25
16. セメント	増	1			1					1		3
	減	2	3		3			3		2		13
17. その他の窯業品	増									1		1
	減		1		1			3				5

品目	運輸局											
	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計	
18. 揮発油	増	3										3
	減		1		4				1	1		7
19. その他の石油製品	増	1						1				2
	減				1		1	1		2		5
20. コークス・ その他の石炭製品	増											
	減				1							1
21. 化学薬品	増											
	減	1					2	2	1			6
22. 化学肥料	増				1				1	1		3
	減	1	1									2
23. その他の化学工業品	増							1				1
	減		1			1	1	2		3		8
24. 紙・パルプ	増	1					1	1		1		4
	減	2	2	1		1	1	5	1	3	1	17
25. 繊維工業品	増									1		1
	減				1							1
26. 食料工業品	増	1								1		2
	減	4	6			1	6	10	1	1		29
27. 日用品	増											
	減	2				1	1	4				8
28. その他の製造工業品	増											
	減		5			5	2	5				17
29. 金属くず	増											
	減			1							1	2
30. その他のくずもの	増											
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増							1		1		2
	減	3	1	1			1			1		7
32. 廃棄物	増	17						1				18
	減	4						2		1		7
33. 輸送用容器	増									1		1
	減	1			1							2
34. 取り合せ品	増										1	1
	減	2	4			1		5		3	2	17
35. その他	増		1			1	3			1		6
	減		4	3	4	6	4	9		7	1	38